

様式 1

研究報告書（平成 28 年度）

提出者 茶園敏美

提出年月日 2017 年 3 月 28 日

【本ユニットにおける研究テーマ】

和文 WWⅡ 後 占領期 沖縄 と 日本 における 米軍 の 性病 対策

英文 Venereal Disease Control Conducted by the U. S. Military during the Post-War Occupation of the Ryukyus and Japan

【研究のねらいと目的】（600 字程度）

本研究は前年度に引き続き、第 2 次世界大戦後の占領地沖縄と日本で米軍が実施した性病対策の考察をおこない、その実態を明らかにする。

これまで間接統治日本本土の性病対策を、①GHQ の政策②日本の法制度③新聞・雑誌④被害者たちの語りの 4 点から考察した結果、性病対策のための強制検診は、おんなたちへの性暴力であったことや、おんなたちの身体を管理する政策であったことを明らかにした。

今研究は、占領地沖縄の性病対策に関して①米軍および米国政府等関係機関の政策②沖縄のメディア③占領期沖縄のひとびとの体験の 3 つの観点から考察をおこなう。沖縄での性病対策を考察することで、沖縄と日本本土の性病対策を検討することができる。このときはじめて、分割統治された日本の性病対策の全体像を解明することができる。占領軍である米軍がおこなった性病対策の全体像を解明することは、性病の強制検診の被害者の尊厳回復に重要であり、米軍の占領政策解明の基盤となる研究である。

今年度は京都で生き証人があらわれ、その生き証人が高齢のため、占領初期沖縄よりも先に占領地日本の状態をさらに実証的に深めることを優先し、若干の変更を加えて研究の目的を遂行中である。

本研究を遂行するにあたり、今年度は、質的分析法をとり入れる試みを行なった。この分析法は、文化人類学や社会学ではよく使われているが、歴史学にもちいることによって、従来の歴史学研究ではどうしても見落としてしまう事実を深めるのに役立った。

【研究業績】 学会報告・論文など

（国内調査）

国立国会図書および地方図書館への資料調査多数（基盤 C）

2016 年 2 月 26 日－2 月 28 日 いずみ寮（東京）かいた婦人の村（館山）訪問（基盤 B）
（報告）

2016 年 5 月 13 日 一宮茂子著『移植と家族』公開書評会 コメンテーター 立命館大

学先端総合学術研究科上野ゼミ主催

2016年7月と9月 アジア研究教育ユニット学際コロキウムで報告

2016年8月 質的分析法のレクチャーを立命館大学大学院先端総合学術研究科上野千鶴子大学院ゼミにて実施

2016年10月セックスワークセミナーでの報告

(共著)

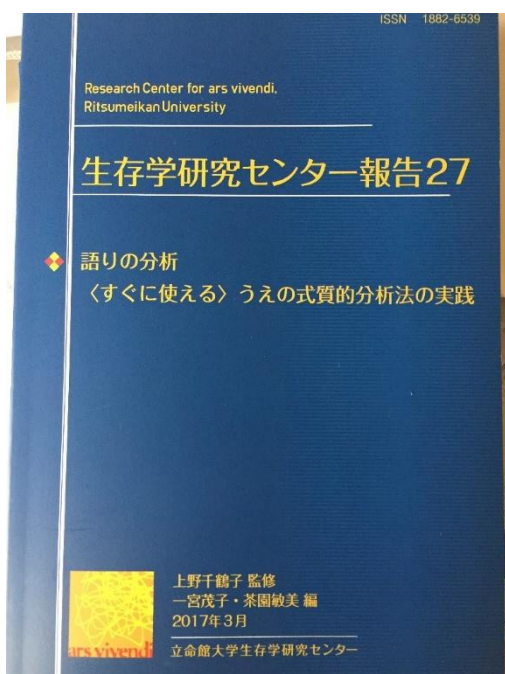
茶園敏美「売春」杉村昌昭・境毅・村澤真保呂編『既成概念をぶち壊せ!』(晃洋書房2016)

(書評)

2016年4月9日付け women's action network にて一宮茂子『移植と家族』(岩波書店)

書評 <https://wan.or.jp/article/show/6606>

2016年5月21日付『図書新聞』にてレギーナ・ミュールホイザー著『戦場の性』(岩波書店) 書評



【成果の概要】 (800字程度)

今年度の成果は、目下執筆中の単著『もうひとつの占領 セックスというコンタクト・ゾーンから』(インパクト出版会、近刊)として出版予定。

また、質的方法論の成果物として、上野千鶴子監修、一宮茂子・茶園敏美編『語りの分析<すぐに使える>うへの式質的分析法の実践』を立命館大学生存学研究センター報告 27 として、2016年3月に刊行した。これは立命館大学生存学研究センターの競争的資金を獲得して出版したものである。この成果も、目下執筆中の単著に反映している。

2014年度の成果物である単著『パンパンとは誰なのか』の成果であらたな生き証人があら

われたことや、米国とドイツから、本研究にかかわる重要な書籍が2015年度にあいついで発行された関係で、本研究も予想外にかなり進展した。

【通信欄】

国際交流支援室、田添さま、向井さま、倉田さま、西田さま、いろいろとありがとうございました!